14. 21-989
1200501164318
.21
989

台灣總督府林業試驗所事報第二七號　同所編

蘭領東印度の油椰子油に就て　山田金治

始

108
142
989

臺灣總督府林業試驗所
事報第二十七號

蘭領東印度の油椰子油に就て

山田金治

南支南洋第一八五號別刷
昭和十五年十一月二十一日

蘭領東印度の油椰子油に就て

山田金治

油椰子の果實より得る油は(一)外果皮を搾りて得るパーム油と(二)仁を搾出して得るパーム・カーネル油の二種に分別される。パーム油は本邦に輸入して石鹸の製造原料に多く用ひられ、日本製鐵所等にて葉鐵製造の際の防錆用に用ひられ、又蠟燭の製造にも使用す。パーム・カーネル油も略々同一用途に供せらるゝ他、人造牛酪其他食用脂肪として利用增加し、特に蘭印産のものは遊離酸の含有少なきを以て食用脂肪として用途は益々增加す。

元來專ら西部アフリカより生産されしも、一九一四年以來蘭領東印度にありても漸く油椰子の栽培を企圖するに至り、一九一九年初めて油の輸出を見、一九三四年末には油椰子の栽培園は五十箇處、面積七四、〇〇〇ヘクタールに達し、内五六、〇〇〇ヘクタールよりは一ヘクタール當り二、四頓の油の生産を見、全世界生産額の三五乃至三七%の油を生産するに至り、現今にては蘭領東印度は油椰子の油の生産に對しては世界に於て主要なる生産地となるに至つた。

而して蘭印に於て生産する油椰子の油は主としてパーム油にしてパーム・カーネル油は副産物の程度に過ぎ

發行所寄贈本

す。此の關係はアフリカに於けるものと全く反對の狀態にある。

パーム油世界總輸出數量（單位＝一、〇〇〇噸）

年次＼輸出額	世界總生產額	内譯 ニゲリア	英領コンゴー	ダホメー	其他の諸國	全アフリカ總計	世界總生產額に對するアフリカ生產額比率	蘭印	マレー	全アジアの總計	世界總生產額に對するアジア生產額比率
自明治四十二年至昭和二年平均	三一	八二	二	三	二四	三一	一〇〇%	〇	〇	〇	〇%
自昭和元年至同五年平均	三四	二四	二六	二六	二七	一九三	八六	二九	二	三一	一四
自昭和六年至同一〇年平均	三三	二四	二四	一四	二三	二〇七	六四	一〇五	二	二八	三六
昭和六年	二六〇	二九	二七	一六	二	一九四	七五	六一	五	六六	二五
同七年	二八二	二六	二九	二	二	一八九	六七	八五	八	九三	三三
同八年	三四〇	二九	五三	八	三	二二三	六二	一二六	三	二八	三八
同九年	三三〇	二三	四四	一四	三	一九三	五八	一三	一六	一七	四三
同一〇年	四二	二三	五七	三	三	二四三	五九	一四三	二五	一六八	四二

即ち昭和六年以降全アジアよりは世界總生產額の二五乃至四二%を輸出し、此の輸出量は累年遞增し、將に世界總產額の半に達せんとして居る。

次に蘭領東印度よりするパーム油及びパーム・カーネル油の輸出價格を表示すれば次表の通りである。

蘭領東印度パーム油及パーム・カーネル油輸出價格（單位＝百萬グルデン）

年次＼種別	パーム油	パーム・カーネル油	計	世界生產價格に對する蘭印生產價格比率
和六年	一二、一	一、一	一三、二	一・八%
同七年	一一、八	一、二	一三、〇	二・四
同八年	一〇、七	一、二	一一、九	二・五
同九年	八、七	一、〇	九、七	二・〇
同一〇年	一三、六	一、二	一四、八	三・二

14.21
989

即ち蘭印よりするパーム油及びパーム・カーネル油の世界總輸生產價格に對する比率は一・八%乃至三・二%なるを知るを得るのであつて從つて、世界的に見れば未だ其の生產額は言ふに足らざる程度である。

更らに蘭印より輸出さるゝパーム油の仕向國を見るに左表の通りである。

蘭領東印度より輸出パーム油主要仕向國表（單位＝一、〇〇〇噸）

年次＼仕向國別	自明治四十二年至昭和二年平均	自昭和元年至昭和五年平均	自昭和六年至昭和十年平均	昭和六年	同七年	同八年	同九年	同一〇年
北米	—	一八	六二	三八	五四	七九	四三	九八
オランダ	—	六	一九	七	一四	一五	二八	二九
英國	—	四	七	一一	八	五	一〇	一
ドイツ	—	一	六	三	四	三	一五	四
イタリー	—	—	九	—	四	一一	二〇	九

即ち仕向國中最も多きは北米合衆國にして、オランダ本國に仕向けらるゝもの之れに次ぎ、他は其の量に於て言ふに足らざる程度である。

以上は左記文献より引用

Rowaan. P. A;-Palmolie (Berichten van de Afdeeling Handelsmuseum van de Kon. Vereening Koloniaal Instituut No 106)

別に蘭印より輸出するパーム油の數量並に價格を各年別に表示すると左表の通りである。

蘭領東印度パーム油輸出統計 (單位＝一、〇〇〇瓩)

年次＼種別	パーム油	パーム・カーネル油
昭和八年	一一六、二二二	二三、一〇〇
同九年	一二一、二六〇	二五、〇六八
同一〇年	一四三、一九一	三〇、六二二
同一一年	一七二、三九七	三六、八〇二
同一二年	一九六、八九五	四一、四六一
同一三年	二二〇、七五二	四七、三九九
同一四年	二二九、八四八	四三、八〇五

(南洋第二六巻第五號)

右表により蘭印より輸出さるゝパーム油及びパーム・カーネル油は逐年數量を増加するを知るべし。

飜つて本邦に輸入さるゝ椰子油の統計を掲げると左表の通りである。因に日本の税關統計に於てはパーム油及びパーム・カーネル油なる一項中に包含掲記するものと思はれる。

本邦輸入椰子油統計

年次	總輸入 數量	總輸入 價格	仕出國別	數量	價格	對輸入比率 數量	對輸入比率 價格
昭和九年	二、三九一、七三二 百斤	三三、四〇四 円	海殖	一、三八六、六六四 百斤	一七八、八三二 円	六〇・五一 %	五三・六四 %
			フイリツピン	六二、九五二	一二、五〇九	二・七五	三・七五
			英領ボルネオ	一三五	二三	〇・〇〇六	〇・〇〇七
			蘭印	七三九、二八一	一二一、六一六	三二・二六	三六・四八
昭和一〇年	二、三六〇、二三一	三三、〇五三	マレー	一〇三、三〇一	二一、三九九	四・〇三	四・一〇
			海殖	一、四二九、五四六	二八四、一五一	五五・八四	五四・四三
			英領印度	一七八	五二	〇・〇〇七	〇・〇一
			フイリツピン	二四九、四八	六、一六一	〇・九七	一・一八
			蘭印	九五九、五一四	一九四、一五八	三七・四八	三七・一九
マレー	六五六、六三九	一三八、七〇七		一九八一	一九、六三		

昭和一一年	三三三、四一四五	七〇六、四六五	海殖	一、五三四、一〇一	三一七、九〇一	四五、九九	四五、〇〇
			英領印度	七七、九四一	一六、八八五	二、三五	二、三九
			フイリツピン	九九五、三一七	二一一、〇六三	三〇、〇三	二九、八八
			蘭印	?	?	?	?
昭和一二年	二、三九九、六七四	六〇一、九六一	マレー	七五六、五四九	一九三、九八四	三一、五、三	三一、二三
			海殖	七一六、二一九	一七八、〇四一	二九、八五	二九、五八
			フイリツピン	一三、五八五	四、七六五	〇、五七	〇、七九
			蘭印	八九八、三二七	二一八、七〇二	三七、四四	三六、三三

（大日本外國貿易年報）

即ち本邦に輸入さるゝ椰子油中三二乃至三七%は蘭領東印度より來るのである。

「訂　正」の一

前號「本邦ゴム工業の原料としての蘭印産ゴム」六十九頁第五表「日本ゴム輸入數量に對する蘭領東印度ゴム輸出數量比率」最下段「日本ゴム輸入量に對する蘭印ゴム生産量比率」は左記の通りに付訂正す

日本ゴム輸入量に對する蘭印ゴム生産量比率

年次	正	誤
昭和六年	五八七%	一七〇%
同　七年	三七三	二六七
同　八年	四〇八	二四四
同　九年	五二八	一八九
同　一〇年	四六八	二一二
同　一一年	三〇七	三二五
同　一二年	六八〇	一四七
同　一三年	六四四	一五五
同　一四年	八二三	一二一
同　一五年	五〇七	一九六

「訂　正」の二　同六十九頁下段九行目一・九六倍は五倍の誤記

「訂　正」の三　同七十一頁上段五行目、日本内地總輸出金額の單位は千圓

1421
989

14
21
989

終